



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

春待力

校長 萩原 哲哉

辞書を引いても、表題のような言葉はありません。私の、勝手な造語です。もし辞書に載せるとしたら、「【しゅんたい・りょく】冬の寒さを耐え忍び、暖かな春を待ち焦がれる心、または力。『忍耐』『我慢』『辛抱』と同義。」のような解説になるのでしょうか。

「〇〇力」というように、語尾に「力」の文字をつけることが流行しはじめたのは、流行語大賞にもノミネートされた、赤瀬川原平氏の『老人力』がベストセラーになった1998年頃からのようです。「老人力」の語は、齢を取ると、体力が衰えたり、物忘れがひどくなったり、マイナスのイメージばかりがつきまとうところを、「力」という文字を添えて、プラス思考へ転換する、逆転の発想で生まれた言葉です。教育の世界では「人間力（社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力）」や、本校の学校教育目標にある「生きる力」といった言葉が使われています。

「応用力」「演技力」などは違和感なく目にできますが、「基礎力」「歴史力」「自然力」あたりは「うん？」と立ち止まり、「女子力」「鈍感力」に至っては意味を熟考します。日本語の造語力に改めて関心しますが、「力」という一文字だけで、物事が前向きにとらえられるような印象を受けます。

片柳小では、と目を向けますと・・・一年で一番寒い時期も半袖で頑張る「半袖力」、給食の食缶をすべて平らげる「完食力」、忘れ物をしない「提出力」、・・・子どもたちは日々の学習・生活の中で、たくさんの「力」を発揮していることに、改めて感じ入ります

学校は「力」をつける場所。「力」であれば、高めることができます。たとえどんなに小さなことであったとしても、一日の生活を終え下校するときの子どもたちには、登校時にはなかった何かしらの「力」が備わっているはずで、それは教科の学習内容であったり、生活の中の発見であったり、人とのかかわり方であったり。

4日は立春。必ずやってくると思いつづけた春が、いよいよ訪れます。「春待力」で蓄えた思いを存分に発揮して、年度のまとめと共に、新しい学年を迎える準備を進めていきたいと思えます。